

平成28年度 第2回向日市歴史的風致維持向上協議会 議事要点録

○ 日 時 平成29年3月24日（金）13時30分から15時00分まで

○ 場 所 向日市文化資料館 2階 研修室

○ 出席者

（委員）脇田委員、神吉委員、高久委員、高木委員、中村委員、西川委員

六人部委員、横井委員、磯野委員（代理：石崎副課長）、丸毛委員

小賀野委員、物部委員（代理：鈴木副部長）、大野委員（代理：福岡副部長）

（ワザバー）近畿地方整備局建政部計画管理課 計画・景観係 牧野係長

京都府総務部自治振興課 石川参事

（向日市）安田市長

（事務局・説明員等）

市長公室 今西室長、林副室長

広報・ふるさと創生課 伊藤課長、谷口主幹、人羅係長

建設産業部 都市計画課 巖嶋課長、道路整備課 太田担当課長

教育部 渡辺副部長（文化財調査事務所長）、玉城副部長（文化資料館長）

○ その他出席者

傍聴者なし、随員1名

○ 会議概要

1 市長あいさつ

2 会長及び副会長選出

会長に高木委員を、副会長に神吉委員をそれぞれ互選により選出した。

3 議事内容

（1）平成28年度進行管理・評価シートについて

国に提出する予定の進行管理及び評価に係る資料に基づき、事務局から平成28年度実施事業の進捗等について説明を行った。

（2）平成29年度実施事業の主なものについて

計画に基づき実施する平成29年度の主要事業について、資料に基づき事務局から説明を行った。

【意見の要旨】

委 員： 阪急東向日駅前では、これまで景観形成上問題となっていたビルがあったが、市が当該ビルを購入するとのことである。そうなれば、より一層周辺のパチンコ店の壁面広告が目立ち、東向日駅前の景観に係る課題解決には至らないと考えるが、市はどのように考えているか。

事務局： 景観と屋外広告物は切り離すことはできないものと考えており、これまで市議会においても議論されてきた。

一方で、駅前景観においては、一定のにぎわいも必要であることから、今後、周辺市町の状況や景観計画を検討する中で議論していきたいと考えている。

委員： 史跡乙訓古墳群として、寺戸町では、寺戸大塚古墳、そして、五塚原古墳が国の史跡に指定された。

市においては、これまでも史跡の公有化について、意欲を示されていたが、その後、地元に状況報告等がない。これら古墳を観光資源とするため、どのような施策を考えておられるのか。

事務局： この2つの古墳がある地域は、合計4.9ヘクタールの広さがあり、平成29年度に公有化事業を推進するため、地籍調査、いわゆる測量による境界画定のための測量調査を実施することとしている

これらの事業経費については、国土地理院の補助事業であり、交付決定に至っていないため、地元に説明ができていない状況である。

今後事業が進捗し、発掘調査等を行う中で、地元に対して、整備計画をお示ししていきたいと考えている。

委員： 竹の径では、現在、立ち枯れの竹が目立ち、景観上の問題があると考え。市では放置竹林対策事業として竹林の調査をされたようであるが、行政としてどのような対策を考えているか。

事務局： 平成27年度、28年度の2か年で、市内竹林に関する竹林台帳を作成した。

この台帳は、面積や所有者、管理状況等をデータベース化したものである。

調査の結果、放置竹林に該当する竹林もあったが、平成29年度、先進地における施策等の情報収集を行う中で、対策を検討していきたいと考えている。

委員： 景観に関すること、史跡公有化に関すること、放置竹林に関することについては、それぞれ、具体的にいつまでにどのような、目標スケジュールが示されていない。今後は、すみやかに事業を進めていただきたい。

委員： 評価シートにおける「定性的・定量的評価」の表記方法について、整備事業では、ただ単に整備したという事実を述べているだけの書き方となっている箇所もある。

例えば、利用者の声として満足度や効果などを指標とするなど、工夫してはどうか。

委員： 向日神社周辺整備事業として、休憩所を整備したことで、多くの方の休憩の場となっている。

また、休憩所には、ガイドブックやパンフレット類も配架してあることから、参拝者をはじめ、ハイキングされる方などの憩いの場として、向日神社を利用される方が増えているように思う。

副会長： この歴まち事業の進行管理においては、毎回進行管理・評価シートをもとに議論しているわけであるが、このシートからは、非常にまじめに事業を行っていることが伝わる一方で、読んでいて心躍る報告書ではないようにも感じる。

向日神社に参拝して、改めて、氏子組織という、一種の地域コミュニティの盛り上がりを感じた。

そういう点からも、現行の進行管理・評価シートからは見えづらいが、この「歴まち計画」を策定したことで芽吹いてきたものが地域に多くあるのではないかと考えている。本協議会を、各事業について、特に、定性的評価の在り方や方法など、広く議論する場とすることが重要ではないか。

また、シート中「効果・影響等に関する報道」の記入欄であるが、報道等タイトル

だけでなく、どのような事業なのかを記入する欄を設けてはどうか。

事務局： 定性的・定量的評価については、いただいたご意見を参考に、記入できる箇所は数値で記入するなど、書き直したうえで国に提出したい。

歴史的建造物については、考えなければならないことも多いが、事業を進めることができるよう、課題を整理していきたい。

また、進行管理・評価シートについては、一律に国から指定されたフォーマットである。国に確認を行うが、シートの変更は困難であるものとする。

副会長： 都市計画、特に景観についてであるが、景観法に基づく条例を策定することは、時間がかかる。例えば、地区計画や建築協定などを検討するなど、他の方法を考える余地はあるのではないかと。

また、富永屋、須田家住宅の歴史的建造物活用事業については、苦勞されていることがわかる。拙速に折衝を進めるのではなく、所有者の都合などに寄り添った「見守る」という選択肢が、時には必要ではないかと考える。

他に緊急のサポートを要する古民家があれば、そちらの方から優先的に支援することも考えてはどうか。

委員： 富永屋、須田家住宅については、例えば、日にち限定、時間限定の公開等も含めて折衝を進めてはどうか。

また、所有者に、建物を管理する上でご苦勞されていることをお聞きするなど、建物そのものだけではなく活用方策を検討してはどうか。

委員： まち歩きにおいては、情報案内板の果たす役割は非常に大きい。ぜひ整備に注力いただきたい。

また、まち歩きでは、ルートの途中でトイレがどこにあるかを最初に考える。トイレ整備は、小さなことのように思うが、実は大変重要であり、そのまちがきれいかどうかの指標となるものである。

文化資料館では、様々な催しを行っており、非常に興味深い施設である。こういった向日市らしさを活かし、事業を進めてもらえればと思う。

副会長： 高低差にこだわって歩くテレビ番組があり、京都市伏見区を取り上げられていたが、その視点が興味深く、地理的にも、向日市にそのまま置き換えることができるものではないかと思う。

文化資料館の史料の中にも、地図情報が多くあり、マニアの方に訴求する材料は豊富であるとする。

3 その他

・本協議会において審議いただいた平成28年度進行管理・評価シートについては、本日の意見を反映させ、国に提出した後、ホームページ等を通じて公表される予定である。

次回の協議会については、開催時期等未定であり、議題があれば開催日程を調整する。